

学 位 論 文 要 旨

氏 名 太 田 寛



論 文 題 目

「Work-family conflict and prolonged fatigue among
Japanese married male physicians.

(日本人既婚男性医師のワークファミリーコンフリクトと慢性疲労の関連について)」

指 導 教 授 承 認 印

堤 明純



(目的) 医師は、精神的にも肉体的にも大きなストレスさらされながら働いている。特に日本人医師は長時間労働が常態化しており、このような状況下で働き続けることにより、疲労が蓄積して慢性疲労の状態になる。また、医師の慢性疲労は、自身の健康を危険にさらすだけでなく、患者の安全にも影響を及ぼす可能性がある。慢性疲労を防止し、ワークライフバランスを保つことは医師にとって重要なことである。ワークファミリーコンフリクト (WFC) はワークライフバランスの決定因子の一つであり、一般労働者では慢性疲労、抑うつ、病欠、そして退職と関連があることがわかっている。しかし、医師においては WFC と慢性疲労との関連は明らかになっていない。本研究は、日本人既婚男性医師における WFC と慢性疲労の関連を明らかにすることを目的とした。

(方法) 日本のある大学の医学部を卒業し、少なくとも3年間医師として働いた1,746人の医師を対象とした。対象者に自記式質問票を送付し、匿名で回答してもらった。質問票では、基本的な属性、労働条件、WFC、そして慢性疲労について質問した。WFC と慢性疲労の評価のために、「WFC 尺度」と「慢性疲労尺度 (CIS)」の日本語版を使用した。慢性疲労は、CIS スコアの上位四分位点に相当する「CIS スコア \geq 79」として定義した。WFC 尺度は、6次元の尺度 (3つの形態 (時間、ストレス反応、行動) \times 2つの尺度 (仕事から家庭への葛藤 [WIF] と家庭から仕事への葛藤 [FIW])) から構成される。WFC のスコアを、三分位数、すなわち低、中、高位の WFC に分け、低位の WFC を基準として、中、高位の WFC に対して多変量ロジスティック回帰分析を行い、WFC と慢性疲労の関連を検証した。

(結果) 回答した男性医師 540 人と女性医師 158 人のうち、既婚男性医師 444 人のデータを分析対象とした。定義した慢性疲労には、117 人 (25.9%) の回答者が該当した。解析の結果、慢性疲労と有意に関連していたものは、高位のストレス反応に基づく WIF (オッズ比、5.56、95%信頼区間、2.55-12.1)、中位のストレス反応に基づく WIF (2.53、1.25-5.10)、高位の時間に基づく FIW (1.92、1.08-3.40) であった。また、慢性疲労と高位のストレス反応に基づく FIW (1.93、0.98-3.83) には弱い関連があった。

(考察) 慢性疲労は、中位と高位のストレス反応に基づく WIF、高位のストレス反応に基づく FIW、および高位の時間に基づく FIW と関連が認められた。これまでの研究でも、ストレス反応に基づく WIF は抑うつ、バーンアウト、仕事への不満足などとの関連が認められている。よって、ストレス反応に基づく WIF を軽減することで、慢性疲労を軽減することができる可能性がある。病院が、ストレス反応に基づく WIF を軽減する対策、例えば、コミュニケーションのスキルを訓練する、メンターを割り当てる、および医師がストレスに対処するための訓練をするなどの組織的な対策をとることにより、慢性疲労を軽減できる可能性がある。

高位の時間に基づく FIW は、家庭での役割を果たすのに時間が必要なために仕事での役割を果たすために時間をかけることができないことを示している。医師は過剰に仕事にのめり込む傾向があるため、家庭での仕事に時間がかかることは、葛藤になり

やすい。家庭内での役割を果たすために時間をかけることの重要性を理解することは、医師と病院管理者の双方にとって重要なことであり、病院は組織的にこの問題に対応すべきである。時間に基づく FIW を軽減するために、非常勤勤務を認めたり、ジョブ・シェアリングを行ったり、柔軟な勤務体制などの対処をしたりすることにより、慢性疲労は緩和される可能性がある。

よって、WFC を軽減するには、WFC 軽減の重要性に対する医師の意識を高めることや医師の勤務を調整するといった対策を講ずるように病院管理者に働きかけることが重要である。それにより、医師はストレスを家に持ち帰らずに対処できるだろうし、家族に対する時間をより多くかけられるようになり家庭内での約束事を守ることができるだろう。

なお、本研究の限界としては、第一に横断研究であるため、因果関係はわからないこと、第二に回答対象者が一つの大学の医学部の卒業生であること、第三に日本人の既婚男性医師のみを分析対象としていることである。

(結論) 本研究の結果により、WFC の低減により日本人既婚男性医師の慢性疲労をも軽減する可能性があることが示された。慢性疲労の軽減は、医師自身の健康を向上させ、患者の安全にも良い影響を及ぼす可能性がある。慢性疲労を軽減するために、病院経営者は、病院での労働条件や労働風土を改善するための対策を講じ、医師たちに WFC への対処の仕方を学ぶ機会を与えるべきである。このような対策により、WFC が軽減され、ひいては慢性疲労を防ぐことにつながる可能性がある。